

平成24年度 事業計画書（概要）

平成24年4月1日から平成25年3月31日まで

社会福祉法人そよかぜ

昨年度は、東日本大震災による計画停電やこれに伴う取引先企業の休業日の変則実施、福祉作業所の開所日や通所時間の変更、宿泊訓練施設つくしの家一時閉所など、そよかぜの事業運営にも少なからず影響がありました。こうした状況の中、地域の皆様をはじめ、協力企業や行政当局、保護者及びその他関係機関など多くの皆様からのご支援をいただき、そよかぜの各事業は概ね落ち着いた活動を続けることができました。特に昨年4月及び6月からそれぞれ開始した、リサイクルショップくれよんのひばり園出張所運営、(株)やまびこ様事業所内作業(施設外就労)など初めての取り組みもありましたが、予想以上に順調に推移することができました。

本年度、社会福祉法人そよかぜは、昨年度に引続き地域の障害者福祉のより一層の発展・増進を図るべく、社会福祉事業4、公益事業2、収益事業1の7つの事業を実施してまいります。

1. 社会福祉事業

社会福祉事業は、社会福祉法及び障害者自立支援法に基づく、第二種社会福祉事業（障害福祉サービス事業の経営）として、福祉作業所ひばり園（就労移行支援事業、就労継続支援B型事業）、福祉作業所スマイル工房（就労継続支援B型事業）、グループホームほほえみ館（共同生活介護・共同生活援助事業）の4つの事業を実施してまいります。

・福祉作業所ひばり園

福祉作業所ひばり園は、一般就労を目指す利用者を訓練指導する「就労移行支援事業」と継続的な就労の場を提供する「就労継続支援B型事業」を行います。

① 就労移行支援事業は、本年度8名の利用者により事業を実施していきます。8名中3名（羽村特別支援学校新卒者1名、他市中途利用2名）が本年度からの利用となり、今後2年間をかけ一般就労に向けた訓練や作業体験、就労準備等を行います。5名の利用者は昨年度1年間の訓練等を済ませ、本年度は2年目（最終年）として、一般就労に向けた仕上げの1年となり訓練メニューもこれに即した内容になっていきます。ただ、利用者個々の進捗状況には差があるので一人一人に適した支援を計画的に実施していきます。

② 就労継続支援B型事業は、昨年度、新たな試みとして実施した「企業内作業」（(株)やまびこ様事業所内での施設外就労支援）と出張所（リサイクルショップくれよん）の運営が当初の予想を超えて順調であったことから、本年度もこれを維持・発展させるよう努めます。本園については、新たに3名の利用者（羽村特別支援学校新卒者）が加わり、ひばり園としては60名の登録者で新年度がスタートします。現在も利用希望の問い合わせや見学者が多数あり、昨年度70名に増員した分もそう遠くない将来満定員になりそうな状況です。授産活動に関しては、作業の

受注量が増大する傾向が続いており、当園だけではこなしきれない状況も少なからずあるため、スマイル工房や他市の作業所等にも応援をいただき企業ニーズにお応えできるよう努めます。

③ 福祉作業所ひばり園は、本年度、東京都第三者評価(障害分野)を受審する予定です。第三者の視点から事業評価をしていただき、その結果をより良い利用者サービスや事業所運営等に役立てます。

・福祉作業所スマイル工房

福祉作業所スマイル工房は、昨年度に引き続き天然酵母のパン・クッキー製造販売及び協力企業より受注する室内軽作業を中心に授産活動を行います。昨年度は、東日本大震災の影響による計画停電の実施により、パン・クッキー生地を作る発酵機に必要な電力が十分に得られない日があり、全体の生産計画を修正せざるをえませんでした。本年度は、お客様のニーズにより極め細かく対応し、活発な製造販売活動を目指します。また、ひばり園との連携で実施している農業機械部品個装作業や羽村市指定ゴミ袋のパッケージ作業、その他紙器加工作業なども積極的に行っていきます。障害特性に十分配慮し、利用者の皆様が安定した作業所活動ができるように支援します。また、希望される方には、一般就労に向けた支援も行います。

本年度、そよかぜを取り巻く地域の課題として、精神障害者の通所先の不足があげられます。スマイル工房も定員 20 名のところ、4 月 1 日現在の利用登録者は 23 名で登録待機者も 5 名いる状況になっており、潜在的なニーズはさらに多いと予想されます。しかし、現有施設（市からの無償貸与）の収容能力には限界があり、今後の対応について関係機関と協議していきたいと考えます。

・グループホームほほえみ館

グループホームほほえみ館は、昨年度、定員 4 名のところ欠員 1 名で事業を実施し経営上厳しい一年となりました。本年度は、3 月に 1 名の入居利用が決まり、共同生活介護 1 名、共同生活援助 3 名の 4 名で事業を行います。利用者それぞれが日中は職場や作業所に通っており、安定した職場及び作業所活動ができ、快適で有意義な地域生活を送れるように支援します。

2. 公益事業

・宿泊訓練施設つくしの家

宿泊訓練施設つくしの家は、昨年度、利用登録者 19 名でスタートしましたが、本年 4 月 1 日現在で 22 名の利用登録となり、3 名の増員となりました。しかしながら本事業は、そよかぜの独自事業として行われており、市当局からの施設貸与や一部運営資金の補助をいただいているものの、財政的には厳しい状況が続いています。本年度は、昨年度と同様に事業を実施していきますが、近年、本事業の発足当時に比べ、ケアホームやショートステイなど地域の障害者福祉資源の充実がすすみ、本事業を取り巻く環境は大きく変わってきており、来年度以降については、事業の実施状況等を詳しく検証し、その必要性も含め検討します。

・羽村市障害者就労支援センター・エール

羽村市障害者就労支援センター・エールは、昨今の就労環境の厳しさや、障害特性の複雑化に伴う援助困難ケースの増加、職場定着支援ニーズの増大など、業務量は右肩上がり増加しています。本年度は、昨年同様に職員3名体制で事業を行います。しかし、今後も予想される利用者ニーズの増加に対応するため、市当局とも相談しながら職員の拡充等も検討していきます。

3. 収益事業

・資源回収事業

資源回収事業は、古紙(新聞・雑誌・段ボール)及びアルミ缶プルトップを対象に、平日、ひばり園利用者と共に主として民間の事業所や学校等を対象に行うものと、毎月第3日曜日に市民ボランティアのご協力をいただき一般市民のお宅を対象に行うものとがあります。資源回収で得られた収益は、経費を除いて全て法人事業の運営資金になります。本年度も昨年同様に「安全第一」をモットーに事業を推進します。